

厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
総括研究報告書

医療の質の評価・公表と医療情報提供の推進に関する研究

研究代表者 福井 次矢 聖路加国際大学 聖路加国際病院 院長

研究要旨：

**【医療の質の評価・公表等推進事業】**

1. 平成30年（2018年）度の厚生労働省「医療の質の評価・公表等推進事業」に選定された全日本民主医療機関連合会と日本赤十字社の2病院団体に測定・公表した共通QIセットに関する調査を行った。対象となった140施設のうち90施設（64%）から回答が得られ、結果としては、前年度の日本病院会と全日本病院協会の2団体を対象として行った調査結果とほぼ同様であったが、予防的抗菌薬の投与について、自施設に役立つ、全施設で測定すべきであると答えた施設の割合が低かった。全体的には、共通QIセットは自施設の質の改善に役に立つこと、測定の容易さについては改善の余地のあることがわかった。また、今回の調査では、小規模病院から大規模病院までが対象となっており、病床規模によって有益な指標が異なるため、病床規模を考慮した共通QIセットの新設・改廃が必要と考えられた。

医療の質の改善は年度を跨いで経年的に行われるものでありモニタリングを必要とすること、共通QIセットの新設・改廃、QIの定義のメンテナンス、マスタ整備、評価や公表などの手順の標準化・改善は継続的にかつ統一的に行う必要があることなどから、この事業を全国的な視野で推進するための団体が必要と思われる。

2. 平成30年（2018年）12月18日に、平成22年（2010年）に開始された厚生労働省「医療の質の評価・公表等推進事業」参加した全9病院団体のうち8病院団体と国立大学病院データベースセンターの代表者による「医療の質の評価・公表に関する研究」意見交換会を開催し、QI事業を全国展開するうえで、これまで厚労省の事業に参加してきた病院団体を主体とする「協議会」を軸に何らかの事務局を設置することについて賛同が得られた。

**【医療機能情報提供制度】**

今年度は、医療機能情報提供制度の多言語化に注目した。各都道府県の医療機関検索サイトの比較を行い、翻訳されている言語の種類を調査した。調査の結果、47都道府県のうち、外国語対応しているのは13都道府県、使用されている言語は、英語、韓国語、中国語（簡体、繁体）、ロシア語、ポルトガル語、インドネシア語、タイ語、フランス語で、最も多くの外国語で情報提供していたのは山梨県が運営するやまなし医療ネットであった。

都道府県によりニーズの高い外国語が異なることは明らかである。したがって、医療機能情報提供にあたって、英語、韓国語、中国語の提供は必須とし、それ以外の言語については、都道府県ごとに決めるのが適切と思われる。

研究分担者

猪飼 宏	山口大学医学部附属病院 医療情報部 准教授
今中雄一	京都大学 医学研究科医療経済学分野 教授
今村知明	奈良県立医科大学 公衆衛生学講座 教授
嶋田 元	聖路加国際大学 情報システムセンター センター長
高橋 理	聖路加国際大学 公衆衛生大学院 教授
伏見清秀	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 教授
松田晋哉	産業医科大学 公衆衛生学教室 教授
大出幸子	聖路加国際大学 公衆衛生大学院 准教授

研究協力者

岩渕勝好	山形県立病院再生館 呼吸器内科 科長
国澤 進	京都大学大学院医学系研究科 社会健康医学系専攻医療経済学分野 講師
堀川知香	聖路加国際大学 情報システムセンター 情報室